

平成28年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成28年1月(次回調査は平成28年8月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (生活の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 85.6%(131名/153名) <前回 80.4%(平成27年8月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	91	69.5%
女性	40	30.5%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	43	32.8%
沿岸南部	88	67.2%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	17	13.0%
40歳台	32	24.4%
50歳台	50	38.2%
60歳以上	32	24.4%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	71	54.2%
被災なし	55	42.0%
不明	5	3.8%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 50名(38.2%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 37名(28.2%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 44名(33.6%)

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が73.2%と前回(66.4%)を6.8ポイント上回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は5.4%と前回(10.6%)を5.2ポイント下回った。

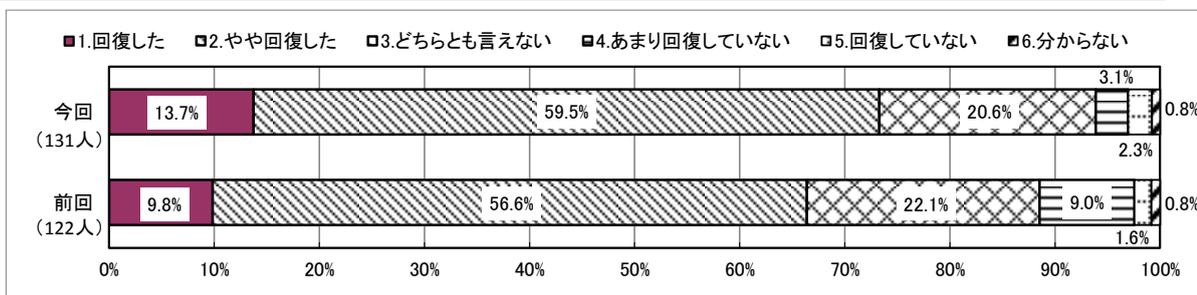
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった(沿岸北部60.5%、沿岸南部59.1%)。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で86.1%と前回(80.0%)から6.1ポイント上回り、沿岸南部では67.1%と前回(59.8%)を7.3ポイント上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が68.7%と前回(59.5%)を9.2ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は9.1%と前回(12.4%)を3.3ポイント下回った。

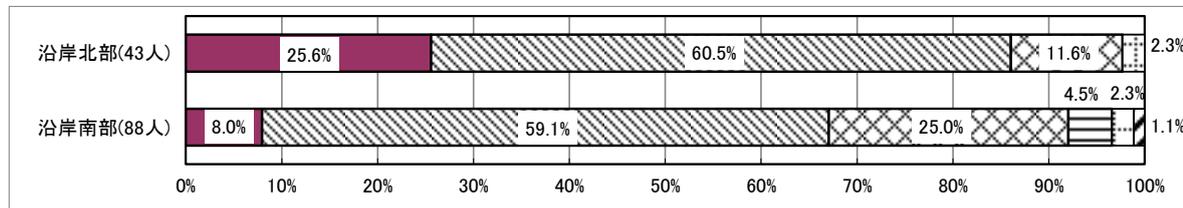
高台土地造成の進捗により新居への入居が進んでいることを評価する声がある一方、災害公営住宅の家賃負担に対する不安を訴える声などもあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

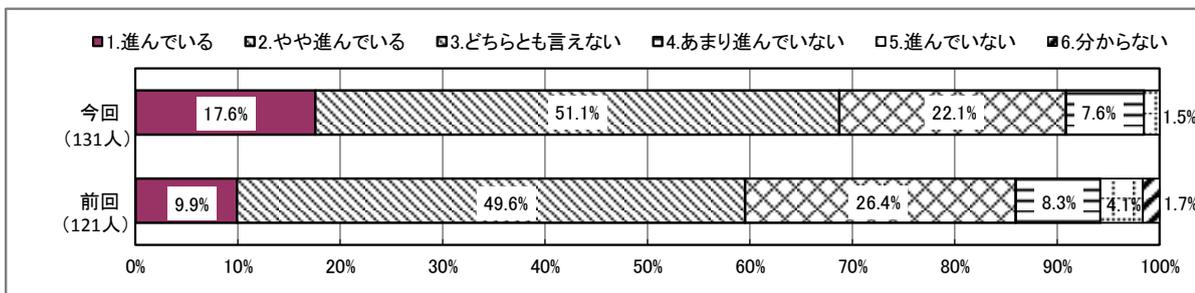


地域別

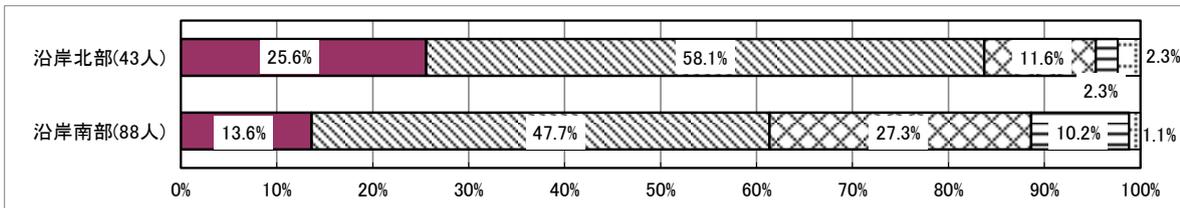


② 直近6ヶ月間(概ね8月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防災集団移転の住宅建築が始まり、災害公営住宅の造成工事が始まった。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆リハビリテーションに通われている利用者の方々も、仮設住宅から高台移転先の新居に転居し、新たな生活が始まりました。生活空間の変化による高揚感から新年を迎えて最初に通われた時の笑顔がとても印象的でした。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆好きな物、必要な物等購入しやすくなってきた。復興住宅に入居が決定している方々はもう少しで仮設住宅から退去できる喜び楽しみで気持ちも明るくなってきている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆県・町営の災害公営住宅への入居や、道の駅開業等により、復興の足跡がみえてきましたが、それはまだ一部分であり、土地区画整理、防災集団移転、津波復興拠点など、これからも一山二山あると思います。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆仮設住宅の空きがだいぶ多くなってきた事と、高台に新しい住宅や集合住宅も建てられ引越しも進んでいる様子がみられるが、まだ完全ではなく、進行途中である様に感じる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆復興公営住宅が完成して入居が始まった。「仮設と比べものにならないくらい住み心地が良い」という声をよく耳にする。しかし、集会所が気軽に使えず、住民交流の場も無いのが現状。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆今年度は特に集中復興期間最終年度ということもあり、土木工事を中心に高台移転へ住宅再建なども、目に見えて進んでいる状況が確認できるため。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆高台の土地造成が進み、本年度中に保育所の仮設からの引越しが始まる予定である。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆自宅再建が進み、入居する人たちが増えている。しかし高台団地内のコミュニティとしての機能はまだまだだと感じられる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆住宅以外にも学校等の公共施設が建設され、「この地で暮らしていく」という生活の見通しがより現実感を増した感じがする。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆地元の防災集団移転地の工事が、この6ヶ月間でかなり進み、被災者にとって励みになっていると思われる。その一方で、当初防集に移転計画をしていた被災者のなかには、住居の新築を断念して、災害公営住宅に移り住んだ方たちもいる。この人たちのなかには、今後家賃という支出が伴うことへの不安を募らせている方たちもいる。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆今年で5年になって災害復旧、復興に対する予算がなくなると、まだ生活道路や河川がそのままになっていて、以前の行動のようにはいかないので、今後どうなるのか心配している。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆高台の造成が完成し、そこへ新築の家を建て始めている。仮設住宅に住んでいる人が少なくなっているようだ。ただ、仮設住まいの人たちに経済格差があり出られない人もいる。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆高台団地の造成工事も完了し公営住宅、自立再建等住宅が多く完成し、復興が目に見えてきた。次回の調査では仮設住宅からの移転も終わっているだろう。これからは自立しなければいけないが、色々とお費がかさみ不安を感じている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆復興住宅も出来て、仮設から出ている方が多くなった。復興住宅に入りたいと思われている方はやや目的を達することが出来たかと思われるが、地元の仕事がないと思うので、経済的にはあまり進んでるとは思えない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆被災していない家庭で「もう震災関係の支援はいらない」などと、被災した方々への配慮の無い発言をする人間もいる。被災地でもこのような状況であるから、もっと被災者の生活の現状を伝え続ける方法が必要。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が54.3%と前回（54.2%）と前回は0.1ポイント上回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は10.9%と前回（7.5%）を3.4ポイント上回った。

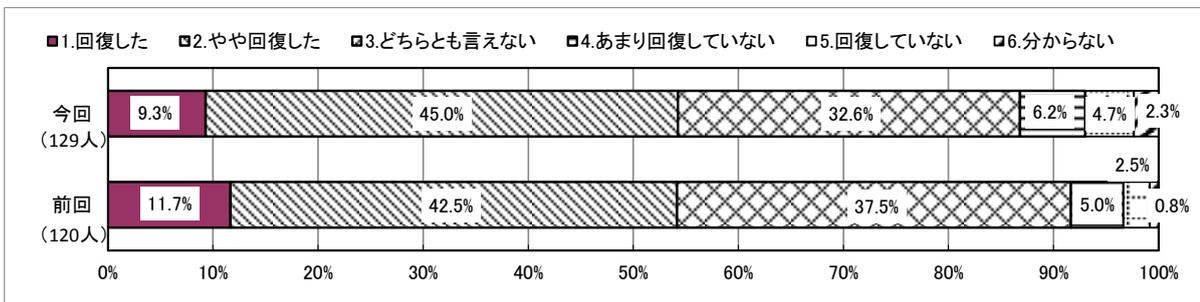
○地域別では、沿岸北部・沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった（沿岸北部50.0%、沿岸南部42.5%）。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で64.3%と前回（60.6%）を3.7ポイント上回り、沿岸南部では49.4%と前回（51.2%）を1.8ポイント下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」「やや進んだ」の合計が44.2%と前回（45.8%）を1.6ポイント下回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は10.9%と前回（9.1%）を1.8ポイント上回った。

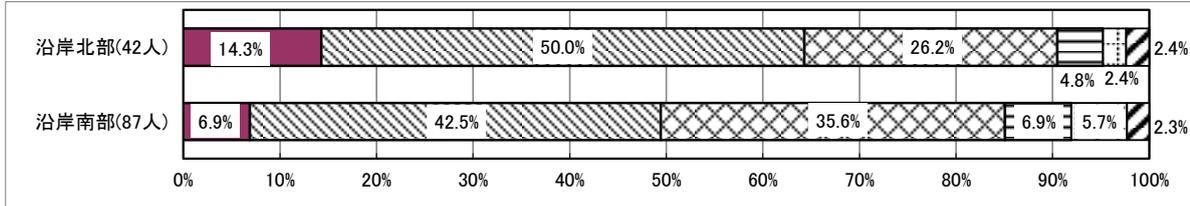
震災前の業績を超えた企業があるという声がある一方、若年者の流出、人手不足、サケの不漁等による収入減などを訴える声もあった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

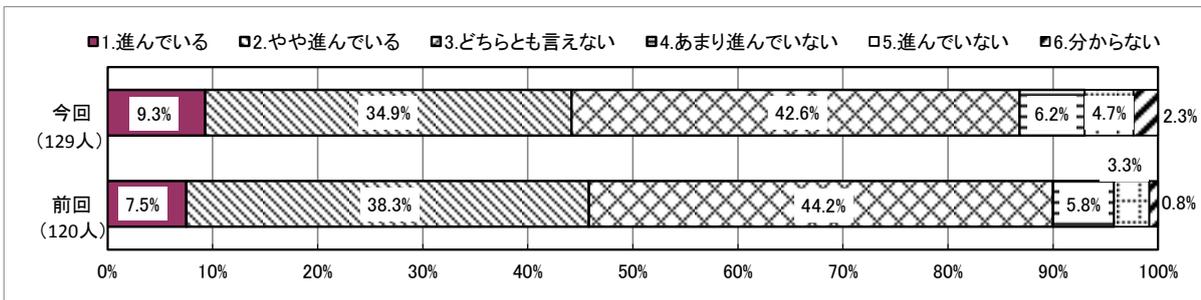


地域別

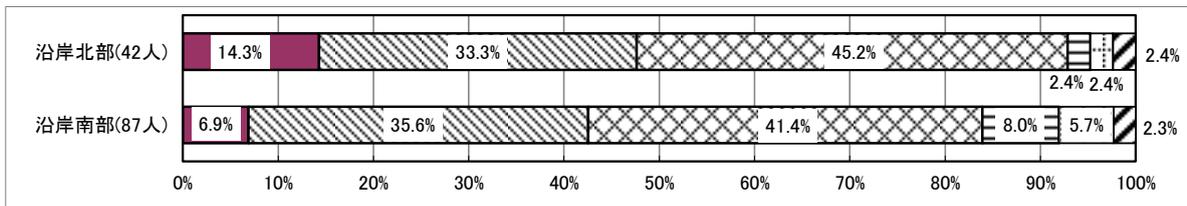


② 直近6ヶ月間(概ね8月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆仮設での経営ではあるが、震災前に近い状態と思います。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆職業柄、企業を回る機会が多いが、震災前の業績を超えた所もでている。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆農業のほ場整備はすべて完成したと思います。震災前より働きやすく整備されました。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆農林水産業も外見적으로는回復している様に感じられる様になった。耕作地がなくなり日々の農作業もできずボーッと過ごしている高齢の方を見かける事がある。メンタル面への働きかけが今後より強く必要と考える。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆震災前の生活水準に至ってきている。仮設商店街にはお客様がそれほど来ず、大変な思いをしている。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆水産業については7~8割回復したように思う。水産業の後継者が少ない事の方が気になるようになってきた。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆今の問題ではなく、10年後先はどうなっているのかを考えると不安。先を見据えた経済・基盤づくりを考えているのか疑問を感じる。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆農林水産業については、ほぼ震災前と同程度には回復してきていると思われる。ただし、若年者の流出が続いており、今後の地元経済の先行きが心配です。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆地域経済の進み具合を把握するのは難しいと感じる。なぜなら、一部の方々は順調であるが、一部は回復に程遠いという様相で、格差が顕著であるため。(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆今は、復興道路の建設や、役所の応援職員の皆さんなどで活気があるように見えており、この人たちがいなくなったら危機感がある。また、魚市場も拡充されたが、加工業などの受け皿が充分ではない。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆小売業や飲食業については、嵩上げ造成地の完成時期が明確となり、事業者も本設再開に向け具体的に動き出した。しかし、将来への不安(集客、資金面、後継者、借地条件等)により様子見ムードも漂っている。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆タラの大漁やホタテやアワビの高値で良い面もあったが、魚は全体的に安く、タコやイカは不漁でコンブは作っても売れなかったり、ワカメは塩蔵品だけ高く、生出荷は安いなど、漁師だけ見ても、個人差が大きい。(40歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆多くの産業で人材不足だと感じる。原因は若者の建設業への流出。建設業の需要が減ってきた時に、どうなるのか心配である。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆進んでいると感じる面(水産業)もあるが、人口が減少している中、地域経済の回復は厳しいと思う。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆共通して言えることは、人口減による人手不足と販路開拓も含めた売上の回復が図られていないこと。(50歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆水産業の市場が仮設から本設へ建設中ですが、水揚げできる場所が狭く、他の作業の場所も限られてとても不便です。サケの不漁も続き、他の水産物の価格も低迷し、どんどん苦しくなっている。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆市街地にあった商店業の本設が全然進んでおらず、商店経営者の多くが、市当局の説明会を受けて、一層の難しさを感じている。特に資金の問題が大きい。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が38.8%と前回（33.3%）を5.5ポイント上回り、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は30.2%と前回（34.2%）を4.0ポイント下回った。

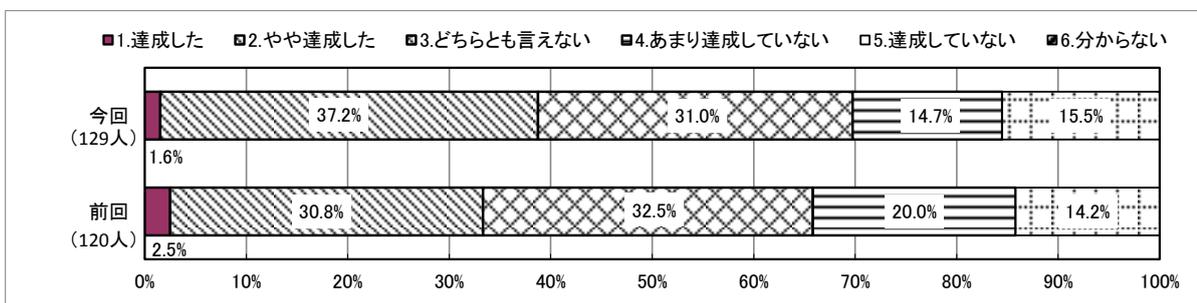
○地域別に見ると、沿岸北部では「やや達成した」が48.8%（前回は38.5%）と最も高く、沿岸南部では「どちらとも言えない」が33.7%（前回は30.9%）が最も高くなっている。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が53.5%と前回（50.4%）を3.1ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は24.1%と前回（24.8%）を0.7ポイント下回った。

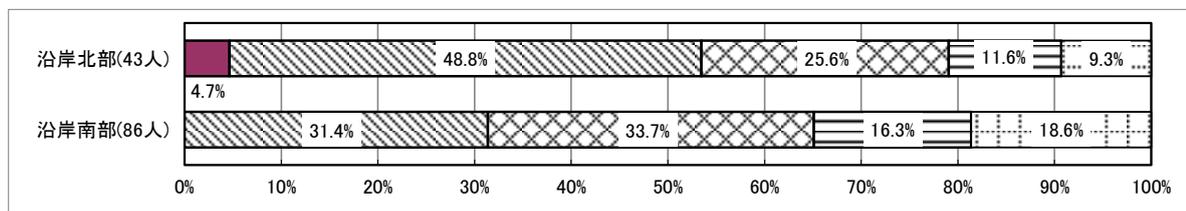
防潮堤等工事の進捗や災害時における安全な道路整備を評価する声がある一方、震災から5年を迎える今、防災意識を高める機会が必要との声などもあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

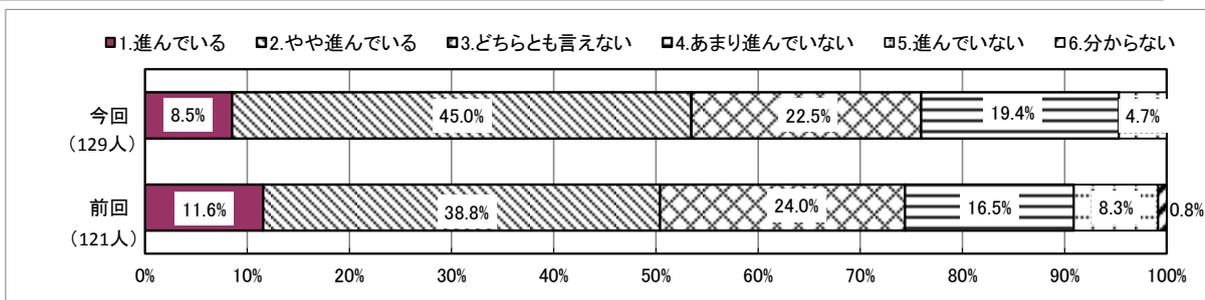


地域別

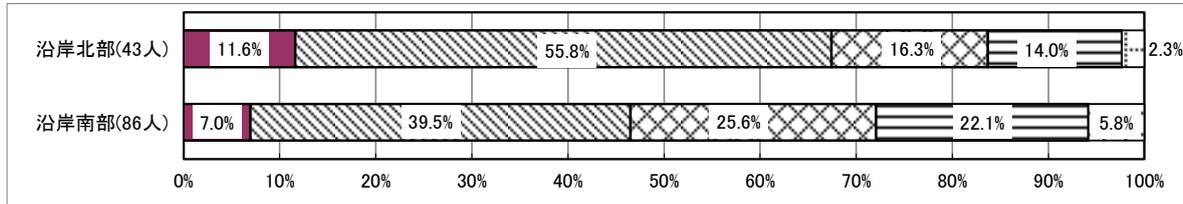


② 直近6ヶ月間(概ね8月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆防災設備や施設がほぼ全て完成した。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)
「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆被災地域で防潮堤工事が進んでいる。復興道路建設も進んでいる。この点では安心なまちづくりが進んでいるように見えるが、5年ほど経った今、もう一度住民一人一人の防災意識を高めるような機会が必要なのではないかと感じる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆目の前の防潮堤工事が始まり、浜の様子が変わりつつある。また、早朝に行われた防災訓練に地域住民が参加するようになった。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆防潮堤工事や、防集移転工事が進捗している。公営災害復興住宅の建設が進んでおり順次完成が近づいている。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆土盛りした上に道路ができたこと。トンネル、高速道路、橋の建設が進んでいること等、災害時の移動がスムーズにできるように工事が進んでいる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆堤防工事が目に見え、工事車両がととも増えてきた。運転しながら、堤防が高くなり、海が見えなくなったことを感じるが「災害に強い安全なまちづくり」を第一と考えれば工事の完成を望んでいる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆防潮堤の嵩上げ工事や道路工事は順調に進んでいる。一方、高齢化が進んでおり、住民の災害に対する意識変化は時間とともに顕著に現れてきている。時間とともに防災・減災に対する意識が減少してきた感じがする。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部) ◆以前より丈夫な防波堤が完成間近です。それで「いい」とは思いませんが、安心感が全く違います。(40歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆避難道を取りあげても「予算の裏付けが無い」住民の真剣に考える力を削ぎ取る大きな一言である。復興を考える人が少なくなっている。予算はどうすれば出来るか。あるいは努力していただいているのだろうか。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆防波堤が高くなり海が見えなくなった道路を通ると、危機感が薄れる様な気がする。既に地震＝津波を認識していない子供、若者が増加している様に見える。地震発生時に海釣りをしているも避難しない人がいる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆見える部分では大きく変化した印象はない。もう少しで震災より5年が経過し、避難訓練等も震災以前から行っているものくらいになった。これが防災意識の低下なのだろうか。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部) ◆ある町の防潮堤を見ました。正直景観も何も無い。ただの刑務所のような雰囲気。町全体が冷たく感じました。仮にこの防潮堤をこえる津波が千年に一度きたとしたら、この町は完全にブルー状態になると思いました。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆防波堤も道路工事も以前より工事休止などあり、目に見えて進んでいる様に見えないのは、予算の関係からでしょうか。以前は工事関係者が宿泊していたホテルや民宿などに空き部屋が見受けられるようになりました。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部)
「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆堤防や防潮堤はまだ完成されていないので、安全なまちづくりはまだまだだと思えます。ようやく盛り土が始まり、仮の道路をつくり始めているところですか。災害復興住宅が建つ場所も整備が始まったところですか。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆防潮堤の工事もだいぶ進んではきているが、完成にはまだまだなので一部不安が残る。区画整備事業も8割方終了し自立再建の方々の家も建ち始めてきた。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部) ◆町を比べてみると、災害に強い安全なまちづくりのために、じっくりと取り組んでいる所と、震災によって被害を受けた所にそのままの状態でもう街ができている所があり、矛盾を感じさせられる。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆防潮堤の復旧が遅れているほか、人々の防災に対する意識の低下は進んでいるところか、後退している印象です。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

平成28年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

平成28年3月3日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>